

中国の最初の体育専門学校とその後の発展

李 真

はじめに

東アジアの文化圏に属し、漢字使用国である日本が、古代以来、中国と密接な関係にあり、したがって政治、思想、芸術、娯楽などの広い分野にわたって、大きな影響を受けたことはいうまでもない。だから江戸時代の儒教は官学として栄え、また近代の「東洋史」と称する日本人の研究領域は、その大部分が中国史であった。しかし、近代史、とくに現代史をみた場合、ある文化研究領域は、逆に日本から中国への影響を示している。つまり、文化相伝のUターン現象があると考えられる。現在、中国と日本との間の文化交流は、世界的関心をよびおこしつつある。

ここで、「ある『人民日報』海外版(1988.2.15)は、中国における最初の体育専門学校に関する記事を掲載した。これは中国の近代体育の発展と日本とのかかわりを知る上で参考になると思われるので、以下に訳出して紹介することにし、またこの機会に中国における体育教育の発展の概況を紹介しようとするものである。これは中日文化交流のために役に立つと考えるので、ここに資料として提供する。

1、訳文

中国の最初の体育専門学校

《解説》『体育文史』第6巻(1987年刊)に中国の体操教育についての短文がのっている。下記にこの文章の編集者の言葉及び全文を紹介する。

《編者案》これは上海文史館⁽¹⁾員徐博霖(あ

ざなを卓呆)先生の遺稿である。いままで発表されていなかったものである。最近、彼の家族によって、提供されたものである。これは、わが国の体育史上重要な価値ある資料である。(人民日報記者 1988.2.15)

私は、1905年日本体操学校を卒業した。その際、わが国の学校の中で、正課体育がなかったので、私は上海で、体操遊戯伝習所を設立し、二期生まで送り出した。その目的は、当時不足していた体育の教員を速成的に養成し、各学校の需要をみたすためであった。

私は、1908年(光緒34年)友人王季魯、徐一氷と一緒に上海で、体育専門学校を創立した。その名称は、「中国体操学校」であった。これはわが国の最初の体育専門学校である。学校の規模は割合と完備していたし、生徒もかなり多かった。しかしながら、ただ運営費不足のために、維持していくことがなかなか難しかった。私達は、一心不乱に働いた。数年間、俸給をもらったことがなかった。私は教務の責任を負った。王季魯は事務的な仕事を担当した。訓育の仕事は徐一氷に責任を持ってもらった。私達三人は、協力し、お互いに苦勞をいとわなかった。

後になって、政府から幸いにも補助金が少しもらえる事になった。且つ、100挺の古い鉄砲も割り当てられ、その困難な時代に、大いに勇気づけられた。さらに私たちをよろこばせたことは、毎期の卒業生が各地方の学校に先を争って請われて奉職したことである。そうして、数年間の後、全国各地方の体育の教師は皆、本校の卒業生となった。

後年、私は事情で、上海を離れた。王季魯も、多忙で各面に配慮することができなかった。そのため、学校の仕事は全部徐一氷によって、運

営されたが、不幸にも徐一冰は、病気で逝去した。それ故に、わが国の体育界での輝かしい歴史を持っていた最初の体育専門学校は、これを維持する人がいなくなった為、閉鎖を余儀なくされた。このことを残念に思う。

また、私の妻、湯剣娥は、日本体操学校（女子部）を卒業した。中国へ帰国後、さらに、王季魯の協力を得て、女子体育専門学校を創立した。その名称は、「中国女子体操学校」というものであり、その「中国体操学校」と「中国女子体操学校」は、姉妹校と言える。ただ姉の学校は不幸にも閉鎖されたわけである。かえって、弱い妹の学校は順調に発展していくことができた。この学校が、即ち、今の「上海中国女子体育師範学校」である。

30年後の今日においては、我国の体育の発達に対して、本校が存在していないけれども、体育専門学校をつくった人のうちのかかなり多くの人は本校の卒業生である。まれで母校に代わって体育界の専門の人材を養成するような使命を果している。そのために、現在の体育界の人物は8、9割ぐらひは、本校の系統に属するのである。

卓杲徐博霖 1938年
(李真訳)

2、中国における体育教育事業の育成について

中華人民共和国最高の体育組織機構は〈中華全国体育総会〉で、国務院に直属する指導機関である〈国家体育運動委員会〉と車の両輪のように一体となり、スポーツ界を指導している。この〈委員会〉は、各部（日本の文部省、外務省などの各省に該当する機関）と同等の行政機関である。そして、各部の中に設けられている体育行政機関を間接的に管理している。例えば、教育部では体育司（日本の文部省の体育局の体育課に該当する機関）が設置されている。学校体育の責任を負っている。但し、体育司は〈国家体育運動委員会〉との関係が深い。学校の競技スポーツ関係は、ほとんど〈国家体育運動委員会〉が行動の主旨を指示する。このことは、

競技スポーツを一体化するためのものである。体育学院（体育大学）の上級の機関として、国家体育運動委員会と教育部の二つの管理機構がある。師範大学、師範学院と師範専門学校の体育学部、あるいは体育学科は、大学と同様、教育部が担当している。

中華人民共和国は体育教育の充実を目指しているので、体育教員養成の学校を数多く設立している。1949年から1956年までの期間は、「社会主義スポーツ創業」時期である。この時期には各種の短期体育幹部訓練を行ったほか、北京、上海、武漢、瀋陽、成都、西安の6体育学院を創設するとともに、11の体育学校と中等体育専科を開設し、38の師範学院体育学科も設けられていた。また、1957年から1966年までの期間は、本格的に大規模な「社会主義建設時期」であった。この時期までに体育学院は、天津、ハルビン、南京、広州の4か所にも増設されている。しかし、1966年から1976年にいたる「文化大革命期」は、中国人民に建国以来もっときびしい挫折と損失を経験させることになった。この時期には、上海体育学院をはじめ、ハルビン体育学院などが閉鎖されざるを得なかった。

1977年より1987年現在の「体育事業の回復と発展時期」における体育学院は北京、上海、天津、瀋陽、広州、武漢、成都、西安、ハルビン、吉林、福建、済南、南京、蘭州の14校で修業年限は4年、北京体育学院は重点大学である。他に北京体育師範学院があり、解放軍を対象とした解放軍体育学院がある。この解放軍体育学院の内容は、日本の自衛隊体育学校のようなものではないだろうか。

体育学院には体育学科と運動学科があり、体育学科は体育教員、体育行政官、コーチを養成し、運動学科はコーチと専門の体育教員を養成している。

師範大学、師範学院（4年制）および師範専科学校（3年制）と師範学校（2年制）には、108校に体育学部、あるいは体育学科がある。これらの学校においては、体育教員、ならびにスポーツの指導者を養成している。

「2000年の中国研究資料」（1984）によると、

1984年まで、養成した体育教員は約25万名と
いうことである。

これらの体育教員を養成する学校の教科内容
については、人体解剖学、人体生理学、運動医
学、教育学、心理学、スポーツ心理学、体育理
論、体育統計学、体育建築学（スポーツ施設）、
運動生物力学といった体育の基本的理論があ
り、さらに政治（中国革命史、政治経済学、唯
物弁証法を含む）、外国語、数学、パソコンな
どの基礎課程がある。また、陸上競技、機械体操、
球技、遊泳、武術、スケート（北方の学院）、選
択科目として体育史、重量挙げ、フェンシング、
レスリング、柔道、ソフトボール、ハンドボ
ール、新体操、舞踊といった運動競技科目がある。

とくに近年来、新興の科目が体育学領域に入
り込んでいる。1981年天津体育学院は体育理論
研究室が体育社会学を研究しはじめた。1982年
天津体育学院基礎理論研究室は〈国家体育運動
委員会〉の委託を受け、体育管理学を研究しは
じめた。体育管理学研究室も設けられた。1983
年までに、前後二期講習班を開設した。その生
徒は、ほとんど各省、市（日本の県、市）〈体育
運動委員会〉の高等体育行政官、及び各体育学
院の青年教員であった。その後、体育管理学は
雨後の竹の子のように各体育学院に続々と設け
られた。1984年武漢体育学院は、体育管理学学
部を設立している。1985年北京体育学院にも体
育管理学学部を設立している。また、瀋陽体育
学院等は、体育管理学研究室が設けられている。
さらに最初の創立校天津体育学院は徐々に下相
談して、1987年初めに深圳市（中国の最初の経
済開発特区）体育運動委員会と共同で体育管理
学学部を設立している。天津体育学院は学業の
責任を負い、深圳市体育運動委員会は教育実習
の責任を担当している。学内で課目を担当して
いる教員が不足の場合、天津市内によその大学
から教員を招聘して講義にあたらせる。

体育管理学部の教科内容、並びに新規の学科
は、体育社会学、体育管理学、体育哲学、体育
経済学、学校体育、体育美学、体育史、体力学、
体育情報、体育の確率と統計、コンピュータ、
群衆体育学（日本の社会体育学に似ている）、体

育行政、スポーツ施設の管理、講座課目として
意思決定論、体育人材⁽²⁾、社会心理学、管理心理
学などとなっている。

しかしながら、この新興の学科は、まだ芽生
えている状態にあるため、世界の先進国へ留学
生を派遣することは、必然の流れとなっている。
それゆえに、80年代後半から政府が日本、アメ
リカなどの国へ留学生を派遣しているのが現状
である。主に体育社会学、体育管理学、学校体
育、体育哲学、体育情報などを専攻していると
いうことである。

中国の体育学科の発展は、これからである。
1980年12月北京に、「中国体育科学学会」の発
足以来、現在まで、10個の学科委員会を設立し
てきている。且つ、今後の展開の重点目標を設
定している。それは次のように示されている。

- (1) 体育学科に関する研究の体制と管理を改
善する。
- (2) 体育の人材の育成を強め、研究する人員
を増加し、人員の素質を高める。
- (3) 応用課題の研究を進めながら、基礎理論
の研究を重視する。下部組織にむけ、実践
に持っていく。
- (4) 積極的に価値がある研究成果を押し広め
て、実践的に応用する。
- (5) 研究器具の整備を充実し、実験条件を改
善する。
- (6) 計算機の応用を重視し、研究の周期を短
縮する。
- (7) 国際交流を推進しながら、学科の発展を
促す。

以上、中国の体育教育の概観を紹介した。1908
年中国の最初の体育専門学校の設立から現在ま
での中国体育教育のあらましを知ることで、何
か参考になるのではないかと考える。今後社会
は、益々発展し、それにつれて国際交流は一層
重要となると思われる。筆者は、今後の中国と
日本との間の体育教育事業の交流と発展、両国
民の心身の健康の為に、微力ながら貢献出来れ
ばと考えている。

注 1、文史館は、文化、歴史の記載に関する

文献資料館という意味

2、スポーツマンの初期の発見に関する研究

参考文献

- 1) 人民日報記事：中国における最初の体育専門学校、(人民日報〈海外版〉) 1988.2.15
- 2) 中国大百科全書(体育)、1982年版
- 3) 中国体育科学学会：2000年の中国研究資料、1984・8
- 4) 日本体育協会：スポーツ大事典、1987
- 5) 笹島恒輔：中国の体育・スポーツ史、1987
- 6) 李真：中国の社会体育、中京大学体育論叢、第28巻第1号 1986、p.69～73